

## 尋常性白斑

のもと皮膚科クリニック 野本 重敏

(2005年10月31日放送)

### Q 尋常性白斑とは？

A 俗に「白なまず」と言われることもありますが、肌の色が部分的に白く抜けてしまう病気のことをいい、顔や首をはじめ、体のどの部分にも生じます。白くくっきり抜けていることが特徴で、その形や大きさについてはケースによって様々です。

### Q どのように進行するのですか？

A ゆっくりと進行していくことが多いですが、急速に広がっていくこともあり、その経過について正確に予測できるものではありません。痛みやかゆみなどの症状はありませんし、うつる病気でもありませんが、顔などの目立つ場所にある場合には強い精神的ストレスになります。生まれつき肌の色が白い「白皮症」という病気もありますが、尋常性白斑は生まれつきではなくて、どの年代にも発症しうるものです。

### Q 原因は？

A 遺伝するかどうかはまだはっきりわかっていませんが、ご家族で同じ症状が見られることもあります。原因はまだよく分かっていませんが、自己免疫疾患の1つと考えられています。自己免疫疾患というのは、本来は外敵をやっつけるはずの免疫システムが、自分自身の健康な組織を攻撃して破壊してしまう病気のことを言います。尋常性白斑の場合にはこの免疫システムが皮膚の色素をつくる細胞を壊してしまうため、色素がつくられなくなると考えられています。

### Q 治療は可能ですか？

A 尋常性白斑は治療をしなくても自然に治癒し、適切な治療でほとんど目立たなくなる場合もないわけではありませんが、残念ながら通常では様々な

治療を行ってもあまり変化がないか、ゆっくり進行していく場合がほとんどです。

Q 治療により肌の色は元通りになりますか？

- A 色が出てくる場合でも、白斑の端からきれいに色が出てくるわけではなく、毛穴から点々と色が出てきてまだらのようになりますので、治療によく反応した場合でも、見た目はそれほど満足できるものではないことも多いですね。しかしそれでも、患者の皆さんの悩みは深刻ですので、昔からいろいろな治療法が試みられてきております。

Q どのような治療法がありますか？

- A 治療法の一つにステロイド剤の外用があります。湿疹などに広く使われているステロイド外用剤が尋常性白斑にも有効です。小範囲の白斑であればこれだけで治癒する可能性もありますが、広範囲の白斑ではあまり大きな効果は期待できません。ただし、長期間の使用ではステロイドの副作用に注意する必要があります。

治療法の一つ目は紫外線療法です。紫外線を照射する装置がありますので、白斑の部分のみ照射を行います。これは単に日焼けをさせて色をつけようということではなく、紫外線照射により免疫担当細胞を刺激して治癒を促そうというものです。ですからただ日光浴をすればいいということではありません。むしろ日光浴などで紫外線にあたり過ぎますと、白斑の境界部の色がむしろ濃くなって、より白斑がくっきりと目立ってしまうことになりますので、むしろ屋外で紫外線にあたるのは避けたほうがいいと思います。紫外線には波長の長いUVAと、波長の短いUVBがあり、治療にはどちらも使われます。UVAによる治療は従来から行われてきましたが、日光浴の場合と同じで、白斑の辺縁がむしろ濃くなって、よけいに目立ってしまう結果になることがよくありました。UVB照射も行われてきましたが、それほど大きな効果があるとはいえませんでした。

治療法の一つ目は手術です。白斑の部分に水疱をつくって水疱の膜を除去し、自分自身の正常な皮膚でつくった水疱の膜を貼りつけるというもので、うまくいきますとかなり良好に色素が再生されます。ただし部位的にやりにくい場合もあり、また結構手間がかかりますので、広範囲に行う場合にはかなりの回数、日数を要します。